



6月に開催する「くらしの見直し講演会」・
「スキルアップ講座」で講師にお迎えする
工藤 広伸氏に、認知症介護について
実体験をもとに教えていただきました。

認知症介護をがんばりすぎないために 知っておくべきこと

2012年の時点では、65歳以上の高齢者の7人に1人が認知症でしたが、今から6年後の2025年には、5人に1人の割合にまで増加すると言われてい
ます。他人事ではない認知症と、家族はどのように接し、どう向き合っていけばい
いのでしょうか？

地域包括支援センターとは？

ある日を境に、同じことを何度も言う
ようになったり、自宅の場所が分からなくな
ったりする家族。今までできていたこと
が急にできなくなった家族の姿にとまど
い、どう対処していいかわからず、途方に
暮れてしまいます。

「これは、認知症かもしれない」

家族をもの忘れ外来へ連れて行き、医
師に診断してもらおうとしても、当の本
人は「認知症ではないから、病院へ行く必
要はない」と言い張りまます。介護保険サ
ービスを利用しようとしても、「誰のお世話
にもなりたくない」と言われ、周囲に相談
できずに1人で悩み、苦しみながら孤独
に介護をしている方が、全国に多くいらっ
しゃいます。



介護が必要になったとき、最初に相談す
べき場所は、地域包括支援センターです。
専門職員が地域内に住む高齢者の「総合
相談」「介護予防」「サービスの連携・調整」
などの業務を行っているのですが、知らな
いという家族も多いです。

ある80代女性が、地域包括支援セン
ターの存在を知り、ヘルパーさんに介護を
手伝ってもらえるようになったと喜んで
いたのですが、それまでの8年間は、認知
症の夫を、誰の手も借りずに、1人で在宅
介護を続けていたのです。

同じ物を何個も買ってしまふ家族

すでに、認知症の家族を自宅で介護さ
れているご家庭も多いと思います。家に在
庫のある必要のない物を、スーパーで何個
も買って来たとき、どう声をかけ、どう対
処したらいいのでしょうか。

「また同じ物を買ってきて！」と、つい怒
鳴ってしまう方や、言いすぎたことを反省
し、自分を責めてしまう方もいます。そん
なときでも「しれっと(何事もなかったか
のように)」「介護するための気の持ちよう
や対処法について、講演会で紹介します。

介護がラクになる便利グッズ

認知症介護をラクにする便利グッズも
数多く登場しています。認知症の方がトイ
シにオムツや尿パッドを詰まらせたとき、
ある物を使って対処すると、業者を呼ばず
に済むこともあります。また、離れた家の
様子を簡単に確認できるカメラや、家のエ
アコンの電源や温度を離れた場所から操
作できる便利グッズもあります。

6月26日(水)の講演会では、生活の中で
感じる認知症のサインや、「がんばりすぎな
い」ための認知症介護のコツについて、家族
目線で分かりやすく解説します。ご期待く
ださい！

PROFILE



介護作家
工藤 広伸氏

1972年岩手県盛岡市生まれ。東京都在住。執筆
を生業にする介護作家・ブロッガー。祖母(認知症+
子宮頸がん・要介護3)と母(認知症+CMT病・要
介護2)のW遠距離介護からスタート。
祖母の死去後、悪性リンパ腫の父(76歳・要介護
5)も別拠点で在宅介護したが死去。成年後見人
経験者、認知症ライフパートナー2級、認知症介
助士。なないろのとびら診療所(岩手県盛岡市)地域
医療推進室非常勤。現在も東京と岩手を年間約
20往復しながらしれっと遠距離介護中。

LPAの会くらしの見直し講演会・スキルアップ講座

がんばりすぎずにしれっと認知症介護

認知症の症状をまるごと受け止めつつ「ムリをせず、ラクをする介護」を、
家族ならではの目線でお話いただけます。

- 時 6/26(水) 10:00~12:00
- 所 県民せいきょう 本部センター
(福井市開発5丁目1603番地)
- 料 無料
- 講 工藤 広伸氏(介護作家)
- 定 100人(申込先着順)
- 申 19ページコールセンターまで



託児あり
要予約(申込先着順)
1歳以上未就学児
お1人につき300円